



YMCA KOBE

Y M C A NEWS

神戸青年

No.611

2011.9・10 Sep・Oct

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7 THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/松森 正樹 神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15 TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479 URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷



神戸YMCA 年間聖句

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、 たゆまず祈りなさい。(ローマの信徒への手紙12章12節)

心身に障がいのある人たちのために 被災地の障がいのある子どもたちの笑顔のために

第14回 神戸YMCAチャリティーラン



今年で14回目となる「神戸YMCAチャリティーラン」が11月3日(祝)しあわせの村(神戸市北区)で開催されます。参加者、ボランティア合わせて1,000人を超す笑顔があふれる注目のイベントにぜひご参加ください。YMCAチャリティーランは1983年、チャック・ウィルソン氏(現大会委員長)の提唱により「日本中の障がいのある子どもたちがYMCAのキャンブに参加できるように」支援する目的で始められ、現在では全国16のYMCAで開催されています。神戸大会は1988年に第1回が開催され、今ではランナーと奉仕ボランティアが全国で最も多い大会になっています。神戸大会独自の「小学生駅伝」など、大会創設の趣旨を踏まえながら、共に走る楽しさ、誰かのために走る素晴らしさを味わうことができる大会にしよう、実行委員会を中心に評価と工夫を重ねてきた結果といえます。今年も大野勉実行委員長(神戸ポートワイズメンズクラブ)を中心に、多くのボランティアの力を合わせて準備を進めています。全国のすべての障がいのある子どもたちが、YMCAで行われているプログラムに参加できるようになるまで、私たちは休んではられません。そして、そのような子どもたちへの社会的な関心を高めることも大切な目標です。今年の3月に東日本で起こった未曾有の大震災と津波では、多くの方々が被災されました。心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の障がいを持つ子どもたちに全国の支援が届いて、子どもたちが笑顔になることを心より願っています。今年も「ラブオンザラン」のスローガンのもと、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

【とき】2011年11月3日(木・祝)

【ところ】しあわせの村ジョギングコース

【プログラム及び参加費】

- 小学生駅伝 (1チーム 2,000円) グループラン (1チーム 5,000円) 駅伝(一般/女子) (1チーム10,000円)

【協賛金(任意)】

- 企業・団体 1口 20,000円 個人 1口 3,000円以上

【お問い合わせ・お申し込み】

神戸YMCAチャリティーラン事務局 TEL 078-241-7201 または各YMCAまで

第26回午餐会

「東日本大震災を学ぶ 仙台からのレポート」

橋崎 頼子 (常議員・神戸ポートワイズメンズクラブ)



第26回午餐会は、仙台YMCAボランティア支援センター所長の村井伸夫氏をお迎えし、被災地の現状とボランティア活動についてお話を伺った。報告の中では、まず、避難所から仮設住宅への移動動向とその課題が述べられた。仮設住宅へ入居後は自活が原則であるが、多くの人は失業しており、自活が困難である。避難所に戻る人も多く、食料などをめぐるとある仮設住宅では、孤立や、これまでのストレスが家庭内暴力やアルコール中毒などの問題となっており出てくる可能性もあり、仮設の中でコミュニケーション作りが課題であると話された。次に、仙台YMCAの活動についての報告があった。震災直後に設置された仮設避難所では、周辺地域住民約450人の避難生活を支えた。10日後にはボランティア支援センターが設置されており、活動例として津波で大きな被害を受けた沿岸部の小学校の子どもたちが避難所の方々に食事を作った活動が紹介された。村井氏は、支援への思い・願いを以下のような言葉で語られた。「被災地の子どもたちは、街や人が流されていく様子、いがみ合う大人たちの姿など、見えないけれどもたくさん見て、心に深い傷を負っている。YMCAでは、その傷を少しでも薄めるために、見えないものを見えるようにする活動をした。将来への夢、ふるさとや家族の絆そして神様の愛を伝えたい。人のために働く喜びを伝えることで、10年後、20年後、子どもたちが地域の担い手として育つことを願っている」ということであった。

また村井氏は、神戸YMCAへの希望として、物的支援、祈りを通じた支援に加え、若者の被災地への派遣支援を通して、被災地のために働く人の育成をして欲しいという希望を語られた。私は、支援者、被支援者の区別なく、人間同士のかわりを大切に、分かち合う喜びを伝え、人を育てるといふ方針に心から共感するとともに、この呼びかけにこたえていくことこそ神戸の地にあるYMCA、そして1人ひとりに求められていることだと感じた。YMCAとしては、若い世代が身体と心を使って被災地で働ける機会をできるだけ作って欲しいと願っている。

マイエポックスストーリー ⑤

宮出 真理 (維持会員、社交ダンスクラブ所属)

社交ダンスとYMCA

毎朝仏壇の主人に手を合わせて祈るのが日課の私が、何故クリスマスチャンのYMCAなのでしょいか。思い返せば平成7年1月17日突然に襲ってきた阪神淡路大震災。婚約中の一人娘は彼の絆をより強くし新生活に踏み出しましたが、私は震災と一人娘の結婚というダブルパンチで人生の喪失感を味わっていました。

そんな時に、習ってみたいと思いついていながら実現出来ずにいた社交ダンスの世界に、足を踏み入れることが出来ました。それが神戸YMCAウエルネス三宮の中にある社交ダンスクラブ(SDC)でした。クラブを通じて多くの仲間たちに出会う事が出来、そして「神戸YMCA・SDC創立40周年記念誌」という1冊の本を頂きました。そこにはダンスの事など何も知らないで入部してきた私を根気よく教えてくださった高柳(村井)利子さん(おりゅうさん)の部長挨拶も掲載されていました。それから、私はクラブのロッカーにある昔の資料を読み漁りました。神戸YMCA・SDC創立20周年・30周年・40周年記念誌にある私の心の琴線をかき鳴らす今井鎮雄元総主事の言葉やキラキラと輝く先輩方の活動の記録など。裏表紙に印刷された「SPIRIT・MIND・BODYの赤い三角」と「みんなのものが一つとなるため」(We may be one)の文字。私の心にしみ込んでまいりました。その後、毎年1回開催される全国YMCA・SDC交歓会(全Y)の開催担当が私達神戸YMCA・SDCになりましたが、それは活字の中でしか会うことのない出来ないうりやうり達に出会える大きなチャンスでした。40周年記念誌編集長の山本和弘さん(カズさん)へ全Y応援依頼の手紙を書きました。打てば響くように返ってきたカズさんからの手紙。その時から今日まで、多くの先輩方からYMCAのことやダンスのことなど数々の事を学びました。今、私の右手には生涯スポーツ社交ダンスが、左手には仲間と共に進むYMCA活動が、どちらも切り離すことが出来ない大切な生きがいとなっているのです。

神戸YMCA創立125周年「USP思い」

神戸YMCA創立125周年に寄せて

安行 英文

(常議員・さんだワ イズメンズクラブ)

1886年諏訪山紅葉館で発会したYMCAは、幾多の変遷を経ながら現在にその運動を引き継いできている。そこには大変な人々の関わりがあったことは想像に難くない。見える顔や、見えない顔や、こまった顔、泣いた顔、喜んだ顔、悲しんだ顔、思いやった顔、愛した顔、愛された顔等々、深い歴史の顔と刻まれた皺が今のYMCAである。

自分を描くということは、他人を描くこととは違い、そこに大きな心理的にも精神的にも隔たつたものがあるに違いない。自分を客観的に見つめる精神が生まれていなければならぬから、自分が描くに値する、という一般の評価が高まっていることも必要であろう。

デジタル画像が発達してくると、この技術が最高のもののように考えられているが、デジタル画像では自画像は成り立たない。それはもともと自画像とは異なる、つまり「描く」という過程がないのである。その過程のうちで自分は新たに原点を守りつつ理想とする自分に変貌する。そんな理想化された姿の反映もあるが、一方では描く側の技量もある。つまり成熟度の到達度合いと、常に原点を見つめつつ時代の変化に対応する姿勢と、内外に評価される信念と実績を持つているかにかかっているのではないだろうか。

しかし、われわれは個人個人が夫々の心と、愛を持って今後もYMCAを支えて行こうと思う。

禅語に、「所謂大心とは、其の心を大仙にし、其の心を大海にし、遍無く覚無き心なり。両を提さずして軽しと為さず、釣をあげて重しとすべからず。春声に引かれて春沢に遊ばず、秋色を見るに雖も更に秋心無し。四運を一景に競い、鉄両を一目に視る。是の一節に於いて、大の字を書すべし。大の字を知るべし。大の字を学すべし。」とある。「いわゆる大心とは、大山のような高く大きな心、大海のような深く深い心を持ち、一方に偏つた考えをせず、ひとつの思いに固執することのない、おらかな心を言う。一両ほどの軽量をさげても軽いとあなどらず、一釣という重量をさげても重いとひるんではなりません。四季の変化を一つの景色の中に思い浮かべ、とらわれることなく、わずかな重さもひと目で見抜く。こういう心をもって大の字を書き、大の字を知り、大の字を学ぶべきである。」と、謳っている。

イエスが口バに乗ってエルサレムに進んだ日、人々は手に手に棕櫚の葉を持ち、イエスが進む先に敷いて、ホサナ、ホサナと叫んで、ローマを率いて正義を実現する強い指導者としてのイエスを期待し歓迎したが、しかし、その後イエスが語った言葉にはそんなものは一言もなく、「互いに愛し愛なさい」と他者を生かすことへの教えと、出会うひとり一人を愛し続けたイエスの姿がある。時を超えても他者を愛し生かすことに徹しようとするイエスの正義は、125年後も神戸YMCAのやはり基礎とすべきことであろう。

こころのケア研修報告

2011年7月4日、三宮会館チャペルにて「こころのケア」研修会が行なわれました。武庫川女子大学の倉石哲也先生が「東日本大震災・被災避難者への支援を考える」という題目で、神戸女学院大学ヘルスサポートセンターの松本聡子先生からは現実的な現地の声をお話し頂きました。



大震災の特質として回復に格差があり、被災地で居住されている方と、避難されている方との間には、回復のスピードに差が生じるというお話でした。現状ではなかなか未来の見えない状況ですが、復興が進むにつれて、そのプロセスに直接関与することにより回復することが強さとなるのに対して、被災地から離れている場合、直接関与することが難しく孤立していく危険性があるとのことでした。避難されている方々が体験するストレスを知り、ケア(生活・身体・心)を学びました。神戸YMCAでは被災児童支援制度を活用いただき、現在、日常プログラムに参加している子どもたち、そして、夏のキャンプに参加する子どもたちがいます。今回の研修では、被災した子どもたちを受け入れる貴重な学びが得られました。

最後に倉石先生が受入れをする時に、大切にすることとして「参加した意志を尊重する」ことをあげられていました。私たちが日頃大切にしている「目の前の人に寄り添う」というスタンスを崩さなければ良いと再認識できた研修会でした。

東日本大震災被災児童支援制度

神戸YMCAは、東日本大震災によって、被災した児童の心身の健康な成長を支援することを目的として、日常プログラムや季節プログラムへの参加費用を助成しています。ご希望される方は神戸YMCAのお近くのランチへお尋ねください。

チャリティワインの会 開催!

チャリティワインの会は今回で23回目を迎えました。三宮会館内のレストラン「サイコー亭」にて47名の参加者にお越しいただき、前回に引き続きポートピアホテル・チーフソムリエの岡本博文氏に選んでいただいたワインで、美味しい食事と楽しいひとときを過ごしていただきました。

この会の収益は、従来通り「子ども奨学金」に充てさせていただきますが、今回は企画の段階で東北支援ができないかということで、西宮ワイズの山本常雄氏のご尽力により、直接現地の商店から可能な範囲で食材を取り寄せました。また、食材以外の物産品も、経済的支援としてオークション販売しました。当日のお手伝いには神戸YMCA学院専門学校ホテル学科の学生にボランティアとして関わってもらいなど、多くの皆様方に支えられ無事に会を終えることができました。感謝申し上げます。

次回は12月初旬に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。



保育園



工芝の園庭ですが、幼児クラスの子どもたちが入る組み立てプール、小さいクラスの子どもたちが入る大・小のビニールプールやたらいを準備すると、子どもたちは色とりどりの水着に着替え大興奮! ちよっぴり冷たい水の中でもまったく平気で、ワニ歩きやジャンプをしたり、水をかけあったり、「見てて!」ともぐつて得意そうにしたり、いきいきと楽しむ姿がみられました。また乳児さんも回数を重ねるごとに大胆になり、小さいプールや、ビニールプールに入って、おもちゃで遊んだり、たらいの中に入り込んでお風呂のようにつかってみたり、小さくても水の楽しさを存分に味わっていました。

木曜日と土曜日は、園庭開放のお友だちも一緒に遊び、みんな水ととっても仲良く、事故やけがなく、今年も神様がくださった「夏」を満喫することができました。

幼稚園



それぞれの保育室が積み木、ゲーム、絵本、絵画、製作、ままごコーナーとなり、子どもたちは自分の「遊びたい」と思うコーナーへ行ってみることが出来ます。しかし、新年度当初には自ら動き出すことが難しく立ちつくして泣いてしまう姿もしばしば見られます。そんな時、助け手となってくれるのは年中・年長児のお兄さんやお姉さんたちです。「どうしたの」「一緒に行こうか」「大丈夫やで」と声をかけ手をさしのべます。このようなことが毎日繰り返し行われる中で、子どもたちは安心して遊びたいと思うところへ自分で行けるようになっていきます。

子どもたちは遊びを通してたくさんの人と出会う言葉を交わし、自分の思いを伝えたり相手の思いを受け入れたりする力を育んでいきます。幼稚園という場が子どもたちにとって安心して自己表現できる場であるように願っています。

この夏も神戸YMCAは、水上安全のさまざまな活動を行いました。

水上安全講習 ~自分の命は、自分で守る~

地域への水上安全講習をはじめ6年目を迎えました。近隣の小学校へ出向いたり、YMCAのプールへ招いたり、様々な形で水上安全講習を行っています。



水辺は、子どもたちにとってたくさんの成長の種が落ちています。そんな水辺での活動を楽しむためにも、自分の命は自分で守れる術を身に付けることが、必要です。そんな願いから水上安全講習が始まりました。子どもたちに身に付けて欲しいことのひとつに、呼吸の確保があります。プログラムを通して、ガス交換(空気を吸ったり、吐いたり)を学びます。鼻からだして、口から空気を吸います。呼吸の確保ができれば、落ち着いてその次の行動に移れます。例えば、大声で『助けてー!』と叫び助けを呼ぶこと。浮いておくために、何かつかまるものがないか探すこともできます。その次に背浮きを覚えます。力を抜いて、肺に空気を入れて、仰向けで浮きます。水と仲良くなれる子どもは、比較的簡単に浮くのですが、まだ水に対する恐怖感がある子どもはなかなか浮くことができません。そこで、遊びの要素を入れながら水慣れをしていきます。そうすることで、ボディコントロールしやすくなります。子どもは知らないことがたくさんあります。知らないことを教えること、気づくように導くことが大人の役割だと思います。水辺での自分の命の守り方を覚える前に、何よりも水辺で遊ぶときには、大人の存在が必要であることを、子どもたちには伝えていきたいですね。水は子どもたちにとって大切な遊び場です。成長の場でもあります。だからこそ、安全に過ごせる術を経験から身につけて欲しいと願うばかりです。

須磨海岸クリーン作戦



さる6月26日(日)、専門学校フィットネス&スポーツ学科の学生たちが、「須磨海岸クリーン作戦」に参加し、その後、水上安全プログラムを実施しました。

この恒例のイベントは、海開きを目前に控えてゴミのない美しい海岸にするために、「須磨海岸を美しくする運動」として須磨区全体で取り組んでいるもので

す。約1時間、たくさんの諸団体、一般のボランティアと一緒にゴミを拾いました。その後、須磨警察・消防署、神戸市水上消防署、航空機動隊、神戸ライフセービングクラブ等々による、緊迫した水難救助訓練を見学しました。毎年、救助の第一線で活躍をされている方々の迫力に圧倒されますが、今年は学生2名が溺者の大役を果たしました。また、水上安全プログラムの一環として、本校講師であり神戸ライフセービングクラブ代表の山根嘉樹先生とライフセービングクラブの皆さんから、レスキューチューブ、レスキューボードの使い方や、日々の厳しいトレーニングを経験させていただきました。学生達にとっては、プロの厳しさを感じるとても大切な機会となりました。

今夏、日本文化コミュニケーションセンター(JCCCN)から12名のメンバー・リーダーが来日し、7月25日(月)〜29日(金)に、神戸YMCAを通して活動を行いました。このJCCCNとの関係は、1995年阪神大震災で多くの支援をうけたことを契機に、メンタルケアトレーニングや親善バスケットを通して交流が続けられました。4年前からは、日本語夏期集中プログラムを通しての交流にも広がってきています。最も長く続いた親善バスケットの交流が、一昨年で終了したため、JCCCNでは、新しいプログラムとしてTYA F P (Takahashi Youth Ambassador Fellowship Program) をスタートさせました。日系という背景をもつため、日本文化や知識を理解することも目的の一つですが、それ以外にボランティアアマインドやリーダーシップ育成等も目的としたプログラムです。そのミッションはYMCAに通じるどころが多く、団体として非常に共感できるものを感じられます。このグループは、来日4週間前に集まり、そこでグループとしてのつながりを作ってから来日しています。20日に来日し、東京・大阪でのプログラムを通して、徐々にグループとしてのつながりを強めてから神戸に入りました。彼らは神戸にくると、必ず訪問する場所があります。児童養護施設(長田こどもホーム)と人と防災未来センターです。ここは、阪神大震災以降、JCCCNが支援を続けているところで、メンバーたちにその関係を十分に説明をした上で、現地を訪問します。最終日には、神戸市立工業高等学校の学生たちとの交流会を行いました。この交流会では、日本とアメリカのティーンを比較し、そのライフスタイルや文化の違いを元にしたディスカッションを行いました。さらに弓道、ITソフトの体験を行いました。学生たちの中にはホストファミリーとしてもお世話をしてくれた方もいらっしゃいます。神戸での5日間はホームステイを行い、実際の生活を体験しました。わずかな期間でしたが、最後のパーティでは、涙を浮かべて感謝の言葉を伝えているメンバーが大変印象に残っています。日系人という背景からなのか、また研修の成果なのか、まことに日本人的な感覚をもったメンバーたちで、ホストファミリーやその子供たちからも、しっかりと受け入れられた様子が見られました。ホストファミリーの皆様方の暖かい受入に、心より感謝致します。この新しいプログラムが、来年以降も継続してもたれることを願っています。

最後に、このJCCCNから東日本大震災の支援活動のために多額の募金を頂戴していることも合わせてご報告いたします。

ソナタ 奏鳴曲 No.49



総理事 水野雄二

♪ふるさと

「何も無くなってしまったやあ」

私が5月に訪ねた宮城県南三陸町の志津川中学校の生徒が書いた作文の中にあつた言葉です。大切な家族を失くし、友人を失くし、また家や家財道具のすべてを失くした人がたくさんいます。仕事や生きる術、生きがいを失くした人もたくさんおられることでしょう。しかし、被災した子どもたちの作文には、それでも力強く前進しようとする言葉も見られ、ホッとする気持ちです。「でも私は、この町で一生懸命生きていこうと思います。」

7月の神戸YMCA午餐会で、仙台YMCAの支援活動を率いる村井伸夫さんのお話を伺いました。その中の言葉「見てはいけないものを見てしまった子どもたちに、目に見えないものを見せてあげたいのです。それは夢、新しい故郷のイメージ、そして神様の働き……」が印象的でした。この何も無くなってしまった大切な故郷にどんな新しい街のイメージを見せてあげることができるでしょうか。それが大人たちの使命かもしれません。

5月に開催された神戸YMCA創立125周年記念のハンドベルコンサートのアンコール曲には東日本大震災の被災地を想って「ふるさと」が演奏され、心にズンと響きました。

「♪ 兎追いし かの山 小鮒釣りし かの川

夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷……」

もう野兎を追うことがなくなり、小鮒を釣ることも難しくなった現代社会ですが、忘れがたい故郷を想う心には変わりありません。何もなくなってしまった故郷であっても、新しい故郷を創るために子どもたちは「元気」を養っていく必要があります。この夏、神戸YMCAはボランティアバスを仙台に出し、被災地に寄り添う活動ができました。また、神戸YMCAのキャンプにも被災地から子どもたちを迎えました。まもなく震災発生から6ヶ月が経とうとしていますが、私たちと「元気」を共有することで、子どもたちの心に「新しい故郷」が見えてくることを祈りつつ、神戸YMCAは支援活動を継続していきます。



神戸高専を訪問

| | |
|-----------------|-----------------|
| ウエルネスセンター三宮 | ☎078 (241) 7202 |
| YMCAホームヘルパーの事務所 | ☎078 (241) 7237 |
| ランゲージセンター | ☎078 (241) 7204 |
| 専門学校 | ☎078 (241) 7203 |
| 西宮YMCA | ☎0798 (35) 5987 |
| 三田YMCA | ☎079 (559) 0075 |
| 余島野外活動センター | ☎0879 (62) 2241 |
| 国際・奉仕センター | ☎078 (241) 7204 |

KOBE YMCA GOAL 2011 Information

| | |
|---------------|-----------------|
| ウエルネスセンター学園都市 | ☎078 (793) 7401 |
| 西神戸YMCA | ☎078 (793) 7402 |
| 西神南YMCA | ☎078 (993) 1560 |
| 須磨YMCA | ☎078 (734) 0183 |
| YMCA保育園 | ☎078 (794) 3901 |
| 西宮YMCA保育園 | ☎0798 (35) 5992 |
| 西神戸YMCA保育園 | ☎078 (792) 1011 |
| YMCAちとせ幼稚園 | ☎078 (732) 3542 |
| 西神戸YMCA幼稚園 | ☎078 (997) 7705 |



7/23~8/14 ICCPJ
余島キャンプに台湾から3人のリーダーが来ていました。慣れない日本のキャンプ生活で戸惑うこともあったでしょうが、献身的にキャンプスタッフとしてキャンパーに奉仕している姿は正にリーダーそのものでした。



7/16 日本語夏期集中コース
日本語夏期集中コースの学生と共に大阪へ行きました。大阪城や難波周辺を観光しました。人出も多く、とても暑かったですが、大阪を満喫できました。



7/25~28 余島達人キャンプA サントリースペシャルゲストキャンプ
カヌー、釣り、アウトドア、余島の達人を目指して、夏休み、初めの大冒険を余島で思いっきり楽しみました！



7/25~8/5 シアトルエクステンジプログラムキャンプ
中高生10名が参加し、シアトルで異文化や本物の英語に触れることができました。ホストファミリーや現地YMCAの方と共に有意義な時間を過ごしました。

Photo Topics in Summer



8/5~7 牛窓マリンキャンプ
今年から始まった牛窓マリンキャンプ！いかだに乗って約1km離れた海岸まで力を合わせて漕いで行ったり、釣りをしたりして楽しみました。夜は、満点の星空の下でキャンプファイヤーをしたり、夜光虫を探したりと、朝から晩までキャンプを満喫しました。



7/26~29 東日本震災ボランティア派遣
啓明学院高等学校の学生と先生、神戸YMCAのスタッフ、計40名で、宮城県山元町いちご農家での支援活動を行ないました。ビニールハウス周辺の草抜きや埋もれたハウスの土台の掘り起こし、設備の清掃等のお手伝いをしました。(協力：神戸大学YMCA)



8/1~4 四万十川清流キャンプ
四万十川で、川遊び、カヌー・カヤック、釣りを楽しみ、自然の雄大さを感じることができました。



8/10~15 わいわいキャンプ (神戸YWCA/YMCA協働被災地支援プログラム)
福島・神戸YWCAの協力のもと、福島の3家族9人と5人の子どもたちを余島キャンプ場に招待しました。キャンプでは余島の大自然の中で自由にのびのびと心ゆくまで楽しむことができました。

【寄付金】 (順不同・敬称略)
谷水清司、奈良昭彦、神戸西ワイズメンズクラブ
*②は入金2回目を表します。
*①は入金1回目を表します。
【125周年協賛金ご協力者】 (順不同・敬称略)
2011年6月15日~8月9日 受付分
宝塚ワイズメンズクラブ②、若屋ワイズメンズクラブ②、加輪上敏彦②、有限会社佐野葬祭、小菅美紀子、佐藤香葉子、藤井とも子②

感謝
【創立125周年記念祝意】
(順不同・敬称略、役職等は5月現在)
神戸市長 矢田立郎、神戸商工会議所会頭 大橋忠晴、三井住友銀行執行役員神戸法人営業部長 服部博明、三井住友銀行神戸法人営業部第一部長 山口清武、商工組合中央金庫神戸支店長 日野賀文、株式会社電通アドギア余島プロジェクト関係 御一同、関西学院院長 ルース・M・グルーベール、NPO法人こうべユースネット理事長 山口淑美、竹中工務店、神戸信用金庫本店営業部理事 部長 山崎茂嗣、株式会社電通パブリックリレーションズ、神戸ユニセフ協会、学校法人神戸滋慶学園理事長 覚野博夫、社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団、酒井哲雄、阿部 恩、日本基督教団神戸教会、松田健之介・松田喜久子、林 英伸、兵庫県青少年団体連絡協議会、岡山YMCA、仁科保雄、社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会、黒田建一、田中和代・寺田寿子・柏木都司子、姫路YMCA、神戸YWCA、日本国際ギデオ協 会神戸支部、安平和彦、学校法人阪神専修学園へ アラト阪神理容美容専門学校校長 半田一朗、保田 茂、兵庫ユースホステル協会、社会福祉法人神視保育園長 牧田 稔、社会福祉法人神戸真塾、社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 長 武田政義、学校法人愛甲学院理事長 西村公男、兵庫県少林寺法連理事長 木村忠昭、日本YMCA同盟理事長 中川善博、広島YMCA、ホテルサンルート神戸総支配人 藤本 禮三、学校法人神戸セミナー校長 喜多徹人、徳梅明彦、御影乳児院長 川村基子、財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団、浅岡徹夫、ポリスカウト兵庫連盟理事長 山田明良、米子ワイズメンズクラブ、尾崎八郎、学校法人大岡学園理事長 大岡 豊、末岡成夫、社会福祉法人イエス団理事長 村山盛嗣、学校法人須磨浦学園、社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会、赤木文生、財団法人こうべ市民福祉振興協会 梶本日出夫、加藤隆久、社会福祉法人神戸市社会福祉協議会常務理事 中西光政、清水泰人、関西NGO協議会 榛木恵子、米谷 収、学校法人高羽幼稚園理事 長・園長 田川 智、日本基督教団神戸栄光教会、神戸西ロータリクラブ、今井鎮雄、公益財団法人兵庫県青少年本部長 栗原高志、北村宗次、イースター式典社、ワイズメンズクラブ西日本区六甲部長 安行英文、神戸ポトワイズメンズクラブ

第25回 神戸YMCAチャリティーゴルフ大会
第25回目を迎えるこのチャリティーイベントは、神戸YMCAの会員活動委員会が主催しています。その収益金は、神戸YMCAの青少年育成活動(障がい児の体育活動、LD児のサポートプログラム、野外活動など)で奉仕をしている500名を超える若いボランティアリーダーを育てるための基金とされております。ぜひ、より多くの皆様がご参加くださるようお願いいたします。
日 時：10月19日(水)
場 所：オリムピックゴルフ倶楽部
会 費：20,000円(予定)

宝くじ協会からテント寄贈
財団法人 日本宝くじ協会様より、西宮YMCA保育園、西神戸YMCA保育園、YMCA保育園、神戸YMCA西神南センターへテント5張りをご寄贈いただきました。幼稚園児、保育園児の夏期のプールや、地域の就園前親子を対象にした、園庭開放活動の他、各地域における行事などに使用されます。感謝を持ってご報告させていただきます。

人事のお知らせ
《採用職員》
6/1 中桐公平さん(余島センター)
★★ 個人消息 ★★
【ご逝去】謹んでお悔やみ申し上げます。
6/26 宗行春子さん(旧職員)
(宗行孝之介さん 神戸YMCA主事 ご母堂様)